絵のように美しい田園風景を後世に残したい

先人から受け継いだ美しく広大な田園風景。農業を次世代につなぐために、地域一丸となって守り、育む。

はるやま21
はるやまにじゅういち

富士市境南・西船津南・船津南

- 車／JR富士駅から約20分
- 電車・バス／JR吉原駅から岳南鉄道「岳南江尾駅行き」岳南鉄道神谷駅

左から水稲部会の鈴木龍一さん、はるやま21代表の髙橋吉人さん、浮島土地改良事務局の平野信子さん。

写真提供：富士市立博物館

❶ 鏡のように水田に映し出された富士山がなんとも清々しい！
❷ 秋はたわわに実った稲穂が秋の日差しで黄金色に輝きます。
❸ 浮島沼での田植えの風景。水捌けが悪く地盤が弱い浮島沼では、胸まで埋もれての田植えは当たり前だったようです。

見に来て！

JA直売所
「野菜工房 うきうき畑」

地元農家から届けられる朝どれの新鮮な野菜や果物、農産物を販売しています。生産者が一番美味しいタイミングを見極めて届けるから美味しさはお墨付き。老若男女が集まる憩いの場になっています。

富士市船津48-1
☎ 0545-34-0449
時間／午前8時から午前11時
定休／火曜・年末年始

北に富士山と愛鷹山を仰ぎ、地域の中心には「はるやま21」の名前の由来である春山川が流れる富士市浮島地区。かつては「浮島沼」と呼ばれた低湿地帯で、農民は冷たい水に胸まで埋もれながら泳ぐように田植えをするという、過酷な農作業を強いられていました。

その後、県営排水改良事業やほ場整備事業により、沼川や昭和放水路の改修、排水路、農道やかんがい施設が整備され、広大な優良農地へと生まれ変わりました。耕作機械の導入が可能となり、営農が行われています。

「夏の時季は愛鷹山がお茶の新緑で、水田は緑が濃さを増し、浮島地区一帯が緑色に染まってて実に美しいですよ」と話すのは、浮島土地改良区理事長の髙橋さん。農地面積120ヘクタール、東京ドームにして26個分。見渡す限り続く緑の田園風景は清々しく、心が洗われます。

「先人より受け継いだこの美しい田園風景を後世に残したい」と、農業者の高齢化や農業後継者の減少が進む中、次世代を担う子どもたちに農業の大切さを伝えるために、地域が一丸となってさまざまな取り組みを行っています。その一環として30年以上前から続いているのが、水稲部会の指導による富士市立東小学校の子どもたちの農業体験です。

水稲部会の鈴木さんいわく、「お米つくり体験では、4月の種まきに始まり、5月はしろがき、6月は田植え、10月は稲刈りと試食会と、一連の経験をしてもらいます。お茶摘み体験では、5月の手摘み、10月の手揉みに加えて、お茶の種類や効能を学ぶ勉強会、闘茶会では品種の飲み比べをします」。

今後は、ほ場の再整備を進めるとともに、特産品づくりやブランド化を目指していくという「はるやま21」。浮島土地改良区では老朽化した施設の更新など、ハード面からその思いをサポートします。

❶ 水稲部会の若手部員と東小学校5年生のみなさん。
❷ 毎年6月に行われる田植え体験の様子。
❸ 毎年7月に神社で行われる「はるやま祭り」。
❹ 区民と東小学校の合同体育祭。

◀「原 朝之富士」（東海道五拾三次内）歌川広重

歌川広重もこの景色に魅了された！

江戸時代後期に活躍した浮世絵師の歌川広重は、かつて富士山がもっとも美しく見える場所と言われていた原宿＊から見た富士を描きました。時を隔てた今もこの絶景を写真に収めようと、カメラ片手に訪れる方もいます。浮島沼には珍しい野鳥が多く集まり、バードウォッチングにもおすすめですよ。

邑びとメッセージ

髙橋 吉人さん

浮島土地改良区の理事長。やまたか農場を経営し、お米と路地野菜を作っている。

＊富士山と愛鷹山の位置関係から、朝、原宿を出発し、浮島沼あたりで描いたといわれています。